委託事業実施内容報告書
令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム（B）】

実施内容報告書

団体名：公益財団法人大垣国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	地域日本語力はぐくみ事業
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	大垣市を中心とした岐阜県西濃地域には外国人労働者を雇用する工場等が多く、大垣市に在住する外国人は平成25年以降増加傾向にある。令和3年3月末現在、5,617人の外国籍市民が在住し、総人口に占める割合は約3.5%と全国平均より高い。近年は、日系ブラジル人を中心に日本に定住することを希望する人、国際結婚、技能実習生の増加などにより、日本社会の一員として暮らす外国人が増えるとともに背景も多様化している。一方、大垣市内にある大学や日本語学校では留学生に対する日本語教育が行われているが、それを除くと大人を対象とした日本語を学ぶ場は当協会の日本語学習支援のみである。 平成28年度に大垣市が実施した外国人市民の現況や課題を調査するアンケートによると、日常生活の悩みや困っていることとして、「言葉が通じない」、「必要な情報が得られない」という回答が上位に挙がった。令和2年度までの5年間「地域日本語教育実践プログラム（A）及び（B）」を受託し、最低限の日本語能力を習得するための基礎コースと、生活場面で必要な日本語を学習しつつ日本の生活情報を習得するコースを開催し、それぞれのニーズに対応してきたが、前述のとおり日本語学習の場が少ないことから、定員を大幅に超える学習希望者がおり、学習の場の充実を求める声がある。 また、日本人市民に目を向けると、同アンケートで外国人市民が増えることについて感じることとして、地域経済の発展につながると思うなどプラスの面を感じている一方、治安の悪化の可能性がある、ごみ捨てなどの生活ルールが乱れると感じている市民が70%以上いた。また、言葉が通じずコミュニケーションがとれないと感じているなど多文化共生の理解が不足している。そのため、地域住民に外国人市民の現況や日本語教育の取組などを引き続き発信していく必要がある。
事業の目的	言葉の壁によるコミュニケーション不足、そして生活習慣や文化の違いなどから生じる地域生活での困難さを解消するために、外国人市民の日本語能力を伸ばすとともに、地域生活のルールやマナー、習慣等を理解する機会を設ける。その中で、地域住民が日本語学習支援の支援者として外国人に寄り添い、社会の中で孤立しがちな状況を軽減させることに加えて、地域に溶け込んで生活できることを目指す。また、多文化共生社会の実現に向けて、日本語教育の取組などを広く地域住民に発信し、日本人と外国人が共に認め合い、対等な立場で生活できる地域づくりを目指す。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	上記の課題解決のために、次の3つの取組を実施した。 【取組1】日本語のコミュニケーションを通して地域の人と交流し、地域生活の情報・ルールを習得する「日本語教室」 対象者及び目標の異なる3つのコースを実施した。 レベル1：来日間もないなど日本語がゼロ初級レベルの人を対象に、安心して暮らせるように最低限の日本語能力を身につける。 レベル2：より自立して生活できるように、生活に密着したテーマで自ら尋ねたりできる日本語を身につける。 せいかつの日本語：日常生活、地域に密着したテーマ（買い物、ごみ出し、医療機関の受診など）でのコミュニケーションと、その場面で役立つ生活情報の習得する。 いずれも、外国人市民が地域で生活していくために、必要な日本語のコミュニケーション能力をはぐくめる学習機会を提供した。 【取組2】日本語学習支援ボランティア講座 外国人のこころに寄り添うサポートを同じ地域の住民自身の手で行い、継続的かつ自律的に日本語教育が実施できるように、市民のサポーターを養成した。サポート人材の輪を広げる入門編と既にサポートをしている人がステップアップできる講座の2種類を実施した。 【取組3】地域日本語教育シンポジウム 地域の人々に、地域に暮らす外国人市民の居場所である日本語教室への理解と多文化共生の地域づくりに向けた理解促進を目的に実施した。課題にあるように外国人が増えることに対するマイナスのイメージを持つ人が一定数いるため、取組の成果発表としての外国人市民の日本語スピーチ発表に加えて、地域日本語教育のありかた特に地域とのつながりをテーマにした講演とパネルトークを実施し、理解を深めるきっかけになるよう情報発信した。
事業の実施期間	令和3年5月～令和4年3月　（11か月間）

2. 事業の実施体制

(1)運営委員会

【運営委員】

1	伊藤　かんな	岐阜協立大学　非常勤講師
2	市橋　剛	岐阜県多文化共生推進員
3	大塚　親子	大垣市公立学校多文化共生指導教諭
4	岡本　幸	CAPCO(大垣市外国人コミュニティーサポートセンター)代表
5	柏谷　涼介	セントラルジャパン日本語学校主任教員
6	桐山　知弘	大垣市まちづくり推進課　主幹
7	小寺　里香	岐阜大学日本語・日本文化教育センター　非常勤講師
8	所　渉子	大垣市多文化共生サポーター事業　コーディネーター
9	社本　久夫	公益財団法人大垣国際交流協会　事務局長

▲Zoomによる開催（令和4年3月6日）

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和3年9月5日（日）15:00～17:00	2時間	オンライン（Zoomミーティング）	伊藤かんな、市橋剛、大塚親子、岡本幸、小寺里香、桐山知弘、所渉子、社本久夫、吉安三恵	①令和3年度「外国人市民のための日本語教育事業」について ・各取組の概要及び実施状況の中間報告をした。 ・効果的な取組とするため、各取組の内容について意見交換をし、改善点を検討した。 ②事業評価の検証方法について ・評価の検証はアンケートを実施することとした。また、アンケート項目について検討した。
2	令和4年3月6日（日）10:00～12:00	2時間	オンライン（Zoomミーティング）	伊藤かんな、市橋剛、大塚親子、岡本幸、柏谷涼介、小寺里香、桐山知弘、所渉子、社本久夫、吉安三恵	①令和3年度の事業評価について ・全取組のアンケート結果や実施状況を通して、目的・目標への達成度と今後の改善点を協議した。 ②令和4年度の事業について ・令和3年度の取組の課題点などから、今後の取り組むべきことなどを検討した。

（2）地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	行政、留学生への日本語教育を実施する地域の大学・日本語学校、市民団体（ブラジルルーツを持つ人が中心となってできた団体）、大垣市の多文化共生事業のコーディネーター、岐阜県多文化共生推進員ら、日頃から外国人に関わる取組を行っている当事者が運営委員会のメンバーに入り、それぞれの立場から多角的かつ効果的な検討・検証ができた。 また、各機関とのネットワーク形成、抱えている外国人との共生に関する課題を共有し、各取り組みの人材や情報の活用において連携・協力できた。 在住外国人の団体と共に取り組む中で、日本人目線だけでなく当事者である外国人の目線も反映させることができ、地域の課題解決に繋げることができた。なお、本事業で当協会が核になって各関係機関・団体同士で実施し、各団体がそれぞれのつながりを持ったり課題を共有したりすることで、地域全体として多文化のまちづくりを実現する能力を向上させることができた。

（3）中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	当地域の「生活者としての外国人」に関係の深い機関・団体のメンバーが運営委員会に入り、そのうち2人が中核メンバーとして事業を推進していく体制で行った。日本語教育の専門機関であり、かつ大垣市行政とも複数の事業で既に連携・協力体制にある岐阜協立大学に所属する日本語教師に意見を聞きながら、当協会の担当者がコーディネーターとなり、行政・日本語教育機関・事業実施主体の各々と連携した。 各機関・団体の役割としては、当協会はこれまでに培ってきた外国人支援の実績から外国人への学習機会の周知や支援サポーターの募集を中核的に行い、過去5年間のコーディネート業務の経験を活かしコーディネーターとして地域の外国人の実情に即した教育プログラムを作成した。日本語教育機関が日本語学習の指導技術を提供・連携し、それぞれの専門性を活かした実施体制を作ることで、参加者に受け入れられやすい事業を行った。

3. 各取組の報告

＜取組1＞ 【実施期間：令和3年6月27日～令和4年1月16日】	
取組の名称	外国人市民のための日本語教室 「①レベル１」、「②レベル２」、「③せいかつの日本語クラス」
取組の目標	・外国人市民が日本語学習を通して、生活の中で自ら地域住民などとコミュニケーションを取れるように日本語を習得し、地域社会の一員として安心して暮らせること。 ・教室活動を通して生活情報や行政情報を得て、自立した生活が送れること。
取組の内容	・多様な背景を持つ外国人住民に対応し、それぞれの日本語レベルに応じた日本語の習得と日常生活で役立つ情報やルールなどを習得する3クラスを、当地域の外国人の学習希望日時で一番ニーズのある日曜日の午前に実施した。 ■①レベル1(40時間) ※計画では2時間×12回×3期＝72時間 ・1期：6/27～11/7（2時間×12回＝24時間）（当初は6/27～9/19の予定だったが、コロナの状況を鑑み8/22～10/3まで一時中断した） ・2期：8/22～11/7で開催予定だったが、最小催行人数に達しなかったこと及びまん延防止適用により中止 ・3期：11/21～1/16(2時間×8回＝16時間(まん延防止の適用により4回中止)) [対象] ・日本語がゼロ初級レベルの人 [内容など] ・地域住民との関係作りのきっかけとなり、地域で受け入れてもらうために「生活に密着したテーマ(家族、趣味、生活、食べ物など)」にした。 ・加えて人間関係の構築に役立つ様々なシーンでのあいさつ(人と会った時、別れる時、お礼、謝るなど)も行った。 ・定型文を使えるようにすることに加えて、それをアレンジして自分の伝えたいことが言えるように教室内で会話する時間を多く設けるようにした。 ・また、例えば食べ物、買い物の回では、ファストフード店での注文をしてみるという場面を作り、アシスタントと一緒に自分のわかる言葉、表現を使って模擬注文体験も行った。 ・文字学習は、自分の名前を書く練習と、五十音を一通り行った。1回目は「あ行」、2回目は「か行」と順にひらがなを一通り行った。教室内ではひらがなを行い、カタカナは宿題で出し、次回の最初に指導者とアシスタントがチェックした。
	■②レベル2(34時間) ※計画では2時間×10回×3期＝60時間 ・1期：7/4～10/31（2時間×10回＝20時間）（当初は7/4～9/12の予定だったが、コロナの状況を鑑み8/22～10/3まで一時中断した） ・2期：11/28～1/16（2時間×7回＝14時間(まん延防止の適用により3回中止)） ・3期：コロナによる中断期間があったことから、スケジュールを組むことができなかったため開催なし [対象] ・簡単な言葉を使って受け答えができる ・やさしい質問に対し、単語や短い文で答えることができる ・ひらがな、カタカナの読み書きができる [内容など] ・地域住民との関係作りのきっかけとなり、地域で受け入れてもらうためにレベル1と同様に「生活に密着したテーマ(家族、趣味、買い物、など)」とした。それに加えて、少し話せる人が対象のため、会社で使える表現やマナー、また図書館の利用も行った。 ・レベル1と同様に定型文をアレンジして使えるようにすることに加え、自分の伝えたいことが言えるように教室内で会話する時間を多く設けるようにした。 ・昨年までの日本語教室学習者に図書館の利用について聞いたところ、ほとんどの人は利用経験がなく、またどこにあるかも知らない人が多かった。利用方法さえ知れば自分で利用することにつながると思い、図書館へ行った。カードの作り方や本の借り方、またどこにどんな本があるかを、少人数のグループに分かれて見学した。また、子ども向けの本など一人一冊本を選び借りた。教室で読み、ペアで感想を言う活動もした。
	■③せいかつの日本語クラス(16時間) ※計画では2時間×8回×2期＝32時間 ・1期：11/7～12/26（2時間×8回＝16時間） ・2期：コロナによる中断期間があったことから、スケジュールを組むことができなかったため開催なし [対象] ・やさしい言葉で話せば、会話ができる ・ 自らの要求や希望を、短い文章で伝えることができる ・ 市民生活に関することばや生活情報などを知りたい人 [内容など] ・生活に密着した場面をテーマとして、語彙、やりとり、情報などを学習した。 ・プログラム(A)で作成した教材から「病気」、「災害」、「買い物」、「ごみ出し」、「110番、119番通報」をピックアップし、その他「コロナ」をテーマに実施した。各テーマは1回または2回完結型。作成した教材を使用した。 ・ごみの分別体験や、119番の通報体験、ハザードマップで家の周りの危険度を調べるなど、行動体験を入れ楽しく学べるよう工夫した。 ・「災害」「ごみ出し」「119番通報」「コロナ」は、大垣市の担当課職員に参加してもらった。災害は、市職員に加え、ブラジル出身の防災士であり岐阜県外国人防災リーダーの人にも参加してもらった。外国人の視点から日頃の備えなどを話してもらうなど、市職員とは違う視点からの話をしてもらうことができた。 ・市職員に協力してもらった回では、災害時の避難所の確認や災害に関する情報提供、ごみ出しルールの説明や分別の指導、119番通報時に聞かれることなどの情報、コロナに関しての相談窓口や情報収集の方法の説明などをした。市役所職員に、外国人への情報提供の方法などを考えてもらうきっかけになり、また外国人も安心して相談しやすくなると考え、連携して実施した。

	≪全クラス共通≫ ●アシスタント ・日本語学習支援ボランティア(3～5人程度）がローテーションでアシスタントとして参加した。グループ活動を一緒にしたり、学習者とやり取りをしたりした。 ●行動目標 ・毎回の教室活動は、「何が出来るようになるかを示す行動目標（can-do statements）」を設け、そのために必要な文型や語彙を学ぶカリキュラムを組み立てた。 ●教室コーディネーターの配置 ・事業全体のコーディネーターとは別途、クラスをコーディネートするコーディネーターを設置した。 役割：プログラムの編成、カリキュラム・教材の作成、複数の指導者がローテーションで指導するため指導者間の調整、学習の習得率が低い学習者への対応、学習者のレベルに応じた授業内容の適宜見直しなど ●日本語教師及び日本語教育機関との連携 ・レベル1は、日本語学校に再委託した。 ・また、全教室の指導者は、専門知識を有する人とし、次の要件を設けた。 ・大学（短期大学を除く。以下において同じ。）又は大学院において日本語教育に関する教育課程を履修して所定の単位を修得し、かつ、当該大学を卒業し又は当該大学院の課程を修了した者 ・大学又は大学院において日本語教育に関する科目の単位を26単位以上修得し、かつ、当該大学を卒業し又は当該大学院の課程を修了した者 ・公益財団法人日本国際教育支援協会が実施する日本語教育能力検定試験に合格した者 ・学資の学位を有し、かつ、日本語教育に関する研修であって適当と認められるものを420単位時間以上受講し、これを修了した者 ・その他これらの者と同等以上の能力があると認められる者 ●託児室 例年は日本語教室に合わせて託児室を開設していたが、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染防止のため、開設しなかった。
空白地域を含む場合，空白地域での活動	
□ 取組による体制整備	・日本語学校、大学から日本語教師を指導者として迎え、日本語教育の専門機関と協働した取組ができた。 ・市職員から災害などの情報提供を行う機会を設け、行政との更なる連携を取り、防災などにおいても協力し合える体制整備をした。特に、今年度は、今までなかった保健センター(コロナ感染症に関して)や消防署と新たな連携ができた。
取組による日本語能力の向上	・ゼロ初級レベルの人が、安心して生活できる日本語の習得 ・日常の生活に役立つ日本語と生活ルールなどの習得
参加対象者	・日本語の学習を希望する外国人住民
参加者数 （内 外国人数）	実数　121人（79人） ■日本語学習者　76人 ・レベル1：33人 ・レベル2：30人 ・せいかつの日本語：13人 ■指導者：12人 ■支援者(アシスタント)：25人 ■協力者：8人
広報及び募集方法	・当協会ウェブサイト ・Facebook（やさしい日本語、ポルトガル語、英語）発信 ・微信（中国語）発信　※中国人が一番よく使うメッセンジャーアプリ ・チラシ配布（やさしい日本語、ポルトガル語、中国語、英語）
開催時間数	総時間　90時間　（空白地域　0時間） ■レベル1　40時間 ■レベル2　34時間 ■せいかつ）16時間
	内訳　2時間　×　45回 ■レベル1　1期：2時間×12回、3期：2時間×8回 ■レベル2　1期：2時間×10回、2期：2時間×7回 ■せいかつ　2時間×8回
主な連携・協働先	日本語学校、大学、大垣市役所(まちづくり推進課、危機管理室、クリーンセンター、保健センター、大垣消防組合）

【レベル1】受講者の出身（ルーツ）・国別内訳（人）※該当する場合のみ	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
	8人（1期：7人、3期：1人）		6人（1期：2人、3期：4人）	1人（3期：1人）				2人（1期：1人、3期：1人）	9人（1期：7人、3期：2人）		33
	パキスタン5人(1期：3人、3期：2人)　スリランカ2人(3期：2人)										

【レベル2】受講者の出身（ルーツ）・国別内訳（人）※該当する場合のみ	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
	5人（1期：1人、2期：4人）		6人（1期：3人、2期：3人）	7人（1期：5人、2期：2人）					9人（1期：8人、2期：1人）		30
	イギリス 1人(1期：1人)　マレーシア 1人(1期：1人)　パキスタン 1人(2期：1人)										

【せいかつ】受講者の出身（ルーツ）・国別内訳（人）※該当する場合のみ	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
	1人		2人	3人			2人		4人		13
	マレーシア 1人										

【機密性〇（取扱制限）】

【レベル1】実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	【1期】 令和3年6月27日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-2	16	あいさつ、教室のことば	文字学習：自分の名前とあ行 あいさつのことば、教室のことば、名前と教室参加者の出身国名の練習	岩﨑　由美	〈補助者〉5名
2	令和3年7月4日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-2	14	自己紹介	文字学習：か行 自己紹介(名前、国、年齢など)、名刺を作って教室内で自己紹介活動	大澤　彩	〈補助者〉3名
3	令和3年7月11日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-2	13	家族の紹介	文字学習：さ行 家族の紹介(関係性、名前、年齢など)。写真やスマートフォンで見せて紹介	渡辺 美ひろ	〈補助者〉4名
4	令和3年7月18日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-2	11	1～3回目の復習	文字学習：た行 自己紹介と家族の紹介をいろいろな質問でやりとり	岩﨑　由美	〈補助者〉3名
5	令和3年7月25日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-2	12	食べ物①	文字学習：な行 好きな食べ物、飲み物、朝ごはんについて話す	高木　弥希	〈補助者〉2名
6	令和3年8月1日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-2	8	食べ物②	文字学習：は行 昼ごはんについて話す、おいしいなどの語彙、ハンバーガー店での注文のロールプレイ	岩﨑　由美	〈補助者〉3名
7	令和3年8月8日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-2	10	買い物	文字学習：ま行 値段を聞く、色違いを聞くなど買い物で使う表現、数字	高木　弥希	〈補助者〉4名
8	令和3年10月10日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンター学習室3-1	4	5～7回目の復習	文字学習：や行 食べ物、飲食店での注文、買い物	大澤　彩	〈補助者〉3名
9	令和3年10月17日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンター学習室3-1	2	一日の生活	文字学習：ら行 何時に起きるなど一日の生活について話す、来週の予定を話す	高木　弥希	〈補助者〉4名
10	令和3年10月24日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンター学習室3-1	3	趣味	文字学習：わ行 スポーツ、音楽、本など趣味に関することばと自分の趣味を説明	岩﨑　由美	〈補助者〉1名
11	令和3年10月31日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンター学習室3-1	1	フリートーク	家族、仕事、休みの日の過ごし方など	高木　弥希	〈補助者〉2名
12	令和3年11月7日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンター学習室3-5	4	総復習	自己紹介、あいさつ、時間の言葉、食べ物、買い物、趣味など話す	岩﨑　由美	〈補助者〉2名
13	【3期】 令和3年11月21日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-1	8	自己紹介	文字学習：自分の名前 受講者、アシスタントと自己紹介	高木　弥希	〈補助者〉5名
14	令和3年11月28日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-1	11	家族の紹介	文字学習：あ行 家族の紹介(写真を使ってグループで活動)	高木　弥希	〈補助者〉5名
15	令和3年12月5日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-2	11	食べ物、飲み物	文字学習：か行 好きな食べ物、飲み物について話す	岩﨑　由美	〈補助者〉2名
16	令和3年12月12日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-2	9	1～3回目の復習	文字学習：さ行 自己紹介、家族の紹介、好きな食べ物について話す	岩﨑　由美	〈補助者〉3名
17	令和3年12月19日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-2	10	一日の生活	文字学習：た行 一日の生活について話す(時間、行動)、1週間の予定を話す	藤村　哲樹	〈補助者〉3名
18	令和3年12月26日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-2	11	好きな料理	文字学習：な行 料理について表す言葉、友達を誘う表現	藤原　弥央	〈補助者〉5名
19	令和4年1月9日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-2	8	どこで食べますか 日本の正月	文字学習：は行 お店のメニューを読む、正月の紹介(お正月の紹介と遊びの体験)	高木　弥希	〈補助者〉4名
20	令和4年1月16日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-2	8	5～7回目の復習	文字学習：ま行 好きな料理、メニューを読む、お店で注文	岩﨑　由美	〈補助者5名

【機密性〇（取扱制限）】

【レベル2】実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	【1期】 令和3年7月4日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-1	18	自己紹介	自己紹介(自分、家族、趣味など)	佐藤 幹樹子	〈補助者〉3名
2	令和3年7月11日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-1	15	買い物①	どういうところで買い物をするかをグループで話す、店員に尋ねる会話(場所を聞く、値段を聞いて支払をするなど)の学習	マーセル アイカマン	〈補助者〉3名
3	令和3年7月18日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-1	14	買い物②	前回の続き(サイズや色違いを聞く、試着できるか聞くなどの店員に尋ねる会話)	佐藤 幹樹子	〈補助者〉3名
4	令和3年7月25日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-1	15	レストラン	ファストフード、ファミリーレストランの注文の会話	マーセル アイカマン	〈補助者〉2名
5	令和3年8月1日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-1	12	1～4回目の復習	今までの復習(いろいろな場面でのフリートーク)	佐藤 幹樹子	〈補助者〉3名
6	令和3年8月8日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-1	15	目的地に移動する	道順を聞いたり、説明を聞いて理解できるようにいろいろな表現を学習	新川　和功	〈補助者〉3名
7	令和3年10月10日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-1	6	公共の乗り物に乗る	時刻表の見方、ホームを尋ねる会話、自分の国の公共の乗り物について話す	マーセル アイカマン	〈補助者〉2名
8	令和3年10月17日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-1	5	職場でのコミュニケーション	丁寧な表現、会社で使う表現	新川　和功	〈補助者〉3名
9	令和3年10月24日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-1	10	6～8回目の復習	今までの復習(いろいろな場面でのフリートーク)	佐藤 幹樹子	〈補助者〉3名
10	令和3年10月31日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-1	11	図書館の利用	図書館へ行き、カードの作り方や館内をグループで見学、多読	新川　和功	〈補助者〉3名
11	【2期】 令和3年11月28日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンター創作実習室3	10	自己紹介	自己紹介(自分、家族、趣味など)	佐藤 幹樹子	〈補助者〉3名
12	令和3年12月5日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-1	9	買い物①	どういうところで買い物をするかをグループで話す、店員に尋ねる会話(場所を聞く、値段を聞いて支払をするなど)の学習	マーセル アイカマン	〈補助者〉3名
13	令和3年12月12日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-1	7	買い物②	前回の続き(サイズや色違いを聞く、試着できるか聞くなどの店員に尋ねる会話)	新川　和功	〈補助者〉3名
14	令和3年12月19日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-1	8	レストラン	ファストフード、ファミリーレストランの注文の会話	マーセル アイカマン	〈補助者〉1名
15	令和3年12月26日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-1	6	1～4回目の復習	今までの復習(いろいろな場面でのフリートーク)	佐藤 幹樹子	〈補助者〉2名
16	令和4年1月9日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-1	5	図書館の利用	図書館へ行き、カードの作り方や館内をグループで見学、読みたい本を借りる	新川　和功	〈補助者〉3名
17	令和4年1月16日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-1	2	電車に乗る	時刻表の見方、ホームを尋ねる会話、自分の国の公共の乗り物について話す	マーセル アイカマン	〈補助者〉2名

【せいかつの日本語】実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和3年11月7日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンター学習室3-1	8	病気になったら①	自分の国と日本の病院システムの違いを話す、病院で症状を伝える表現	伊藤 かんな	〈補助者〉3名
2	令和3年11月14日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンター学習室3-1	11	病気になったら②	病院の探しかた、健康のために気をつけていることを話す	伊藤 かんな	〈補助者〉4名
3	令和3年11月21日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンター男女共同参画活動室	11	コロナ感染症	コロナの不安なことをグループで話す、コロナ情報(相談窓口、感染者数など)の探し方	宮本　正美	〈補助者〉2名 〈協力者〉2名
4	令和3年11月28日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンター男女共同参画活動室	10	110番、119番通報	110番、119番通報で聞かれること、119番通報の体験	宮本　正美	〈補助者〉4名 〈協力者〉2名
5	令和3年12月5日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンター男女共同参画活動室	5	ごみ出し	ごみの分別活動、ごみ出しのわからないことを聞く	小寺　里香	〈補助者〉3名 〈協力者〉3名
6	令和3年12月12日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンター学習室3-1	13	買い物	買い物についてグループで対話	小寺　里香	〈補助者〉3名
7	令和3年12月19日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンター学習室3-1	7	防災①	災害VRの視聴、ハザードマップで危険度を見る、近くの避難所を探す	伊藤 かんな	〈補助者〉3名 〈協力者〉3名
8	令和3年12月26日(日) 9:30～11:30	2	スイトピアセンター学習室3-1	6	防災②	避難袋など事前準備、水害と地震時の避難の違い	伊藤 かんな	〈補助者〉3名 〈協力者〉2名
計		90		413				

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

活動内容(全クラス共通):
・視覚的にも理解を促せるように、どのクラスもスライドを使った。写真やイラストを入れ、レベル1ではひらがなにローマ字のルビを振って作った。
・密になりすぎないように注意しながら、グループ活動を行った。グループ内で経験を話し合ったり、学習したことを使いながらお互いに聞き合ったりした。グループにはアシスタントが入り、発話のサポートをしながら、会話の機会を多く持てるよう活動を行った。

▲スライドを使った学習

▲学習者とアシスタントとのやりとり▲

〇取組事例①

【レベル1　第19回(3期の7回目)「どこで食べますかと日本の正月」 令和4年1月9日】
①前回の復習
・前回食べ物についての学習をしたので、料理の言葉、「おいしい」「甘い」など食べ物の感想を言えるような語彙、「どこで食べますか」を使ってペアやグループで会話
・ハンバーガー屋のメニューを見て、メニューの言葉や数の言い方、教材に載っている注文の例をアレンジした会話
②日本文化体験
・1月最初のクラスだったため、かるたや百人一首を使ってお正月のあそびをグループで行った。
・教材から離れた活動を通して、自然な会話ができていた。また、数を数え、誰が一番多く取ったかなど、学習者とアシスタントがとても和気あいあいとした雰囲気で楽しく会話をしていた。

▲みんなでかるた

▲羽織をはおり日本文化体験

〇取組事例②

【せいかつの日本語クラス　第8回「災害」 令和3年12月26日】
・災害についての2日目のクラス。
・災害時のために、事前にどんな準備をしておくとよいかをグループで考えた。
・非常袋を見せ、どんなものが入っているか、参加者それぞれが自分の場合には何を用意しておくとよいか考えた。
・防災士で岐阜県外国人防災リーダーの長瀬さん(ブラジル出身)に来ていただき、様々な活動を一緒にしていただいたことに加えて、最後にメッセージを伝えてもらった。要旨は、「災害時だけ頼ろうと思ってもダメ、普段から近所の人とあいさつをしたりして、日頃から関係性を作っておかないといけない」ということであった。学習者と同じ外国出身の方からの言葉だったので、一層真剣に聞いておりメッセージが届いたと感じた。

▲ハザードマップで家の近くの危険度を確認

▲岐阜県外国人防災リーダーの話

(2)　目標の達成状況・成果

・目標が達成できたかを検証するために、アンケートを実施した。詳細は別紙アンケート結果の通り。
・【2】「この教室にきて、あなたの日本語はまえより上手になったと思いますか？」の質問を全クラスで実施した。アンケートに回答した全員が、「上手になったと思う」または「まあまあ上手になったと思う」と回答している。教室に参加したことにより日本語の習得ができたと考える。
・【3】「この教室にくるまえよりも、日本での生活ができるようになったと思いますか？」の質問も同様に、全クラスで実施した。アンケートに回答したほぼ全員が、「できるようになったと思う」または「少しできるようになったと思う」と回答している。教室で言葉に加えて、文化や習慣、また生活情報を得たことにより生活がしやすくなり、目標にある「地域社会の一員として安心して暮らすことができるように日本語を習得する」ことができる機会になったと考える。
・レベル2では、指導者の1人をドイツ人の日本語教師に依頼したので、日本語学習の仕方について体験からの学習方法の伝授があり、学習者は学習でのヒントを得ることができた。
・指導者がローテーションである中、レベル1ではアシスタントの1人にほぼ毎回継続して参加してもらった。そのため、学習者との距離が近くなり、学習者もお互いに打ち解け合い、交流が持てるようになっていた。また、ベトナム人のアシスタントが2人参加したことで、日本語学習の先輩であり、また年齢も近いことから教室内での会話が増え、教室活動が活発になったと感じた。
・仲良くなった学習者と一緒に遊びに行ったという話を聞いたり、アシスタントと学習者も「おはよう。元気？」と距離が近い会話をしたりして、回を重ねる中で良い関係ができたようだった。教室内でのつながり作りができ、日本語教室が安心できる地域の場として機能していると感じた。

（3） 今後の改善点について

・レベル1は、昨年度の基礎クラスを元にカリキュラムを改善し、より日常の生活で遭遇する場面を取り扱うことにした。しかし、指導者は、内容が変わったことにとらわれ過ぎてしまい、詰め込み過ぎたり、学習者のレベルや反応に対応できないなど、一部の学習者には楽しいものではなかったようであった。そこで、1期目が終了後、委託先の学校と問題点や改善策を話し合い、3期目はゆっくり進めることやたくさんのことをやるよりも、やることを絞るなど改善をした。それにより、3期目では学習者の反応も良くなり楽しんでいると感じた。また、3期目は半分過ぎたところで、簡単なアンケートを行い、学習者が感じていることを確認するようにした。1期目ももっと早い段階で問題点に気づき修正をするべきだったと感じたので、今後は学習者、アシスタント、指導者の様子を見て、必要に応じて感想や意見を聞く場を設けるようにしていく。
・コロナウイルスの「まん延防止等重点措置」が2度適用され、その間は教室を中断とした。レベル1とレベル2の1期目は約2か月の中断後再開したが、学習者は半分以下となった。また、1月下旬からの「まん延防止等重点措置」では、再開できないまま閉講となった。その間、一部の学習者は日曜日午後に行っている「オンラインおしゃべりルーム」に参加してくれた。中断の期間が長引くと、教室に通うモチベーションを保てなかったりする。教室と同じことをするのは難しいが、教室と同じ時間にオンラインで「おしゃべりルーム」ができれば参加しやすいと思う。来年度以降、中断になることがあれば、そのような場を設けることを考えたい。
・せいかつの日本語クラスは、おおむね例年と同じテーマをやったが、「119番通報」には消防署職員、「コロナ」には保健センター職員の方に新たに協力をしてもらった。教室にいろいろな人が関わってもらうことは、教室外の人とのつながり作りになり、不安なことでも教室内であれば安心して聞くことができる。今後も新たな関わりを持ってもらえる連携先を見つけていきたい。
・コースが増えた中で、例えばレベル2の指導者はレベル1で何を学習してきているか把握するなど、各コースの指導者間でコース内容などの共有が大切である。しかし、今年度予定はしていたがコース間のコーディネーター連絡会議を持つことができなかった。今後は、実施していきたい。

＜取組2＞ 【実施期間：令和3年7月31日～令和4年3月3日】	
取組の名称	日本語学習支援ボランティア講座 「①入門編」、「②ブラッシュアップ編」
取組の目標	・外国人市民も同じ地域に暮らす住民として寄り添った日本語学習の支援者となる人材を養成し、より多くの外国人が日本語の支援を得られる環境を作る。 ・現在活動している人が支援している中で持つ不安や疑問を解決し、より効果的に且つ継続した支援ができる体制を作る。 ・サポートに必要な知識の習得を行うとともに、地域住民の外国人に対する意識や多文化共生の考え方に関する理解を促す。
取組の内容	・新たな人材の養成を目的とする入門編、活動者の不安解消やブラッシュアップを目的とするブラッシュアップ編の2コースを実施した。 ■①入門編（2時間×5回×1期） 1期：（当初の予定） 7月31日、8月7日、8月28日、9月4日、9月18日 ⇒（実際の実施） 7月31日、8月7日、10月16日、10月31日、11月3日 ※計画では年間2期であったが、コロナの「まん延防止等重点措置」適用の影響で、2期目のスケジュールを組むことが出来ず、1期のみの開催となった。 [対象] 日本語学習支援の未経験者向け [内容] ・日本語学習希望者に対して、支援の人材が不足している状況が続いている。そのため、サポートに必要な知識などを習得できる講座を通して人材を育成し、体制整備をするため実施した。 ・地域の外国人の背景や実情、日本語教室の役割、多文化共生についての理解促進、実際の日本語学習支援のイメージを掴んでもらうこと、そして日本語学習のサポートをするにあたり望ましい姿勢や知識を理解してもらうことを目的に、次の内容を実施した。新たな人材の養成とより多くの外国人市民が日本語を学ぶ環境を作った。 1. 大垣市外国人の現状、大垣市の多文化共生の取組 2. 日本語学習支援事業の説明と見学 3. 支援者として必要な知識の講義 （「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)」に記載のある支援者として望まれる資質や能力、支援のための準備、やさしい日本語など） 4. 本事業で平成29年度に作成した教材を使用した学習支援の体験 [受講後の日本語教育との関わり] ・取組1の日本語教室でアシスタントとして活動 ・日本語教室終了後も継続して学習を希望する人を対象にマンツーマン方式の日本語学習支援ボランティアとして活動 ・受講者14人中6人が新規ボランティアに登録してもらえた。 ■②ブラッシュアップ編（2.5時間×4回×1期） （当初の予定） 1月8日、1月15日、1月29日、2月5日 ⇒（実際の実施） 1月8日、1月15日、2月5日、3月3日 [対象] 日本語支援に関わっている人 [内容] ・日本語学習支援ボランティアとして活動している人が、日頃の活動の不安や悩み、疑問点などを解消し、外国人がより効果的に日本語を習得でき、また支援者も活動しやすくなるために、次の内容で実施した。 1. 支援者として必要な知識の講義（支援者として望まれる態度や技能、発話調整、やさしい日本語、コミュニケーション能力の高め方など） 2. 日本語の構造（文の構造や文法の知識、音声やアクセントについて） 3. コミュニケーションのための日本語

空白地域を含む場合，空白地域での活動			
取組による体制整備	・背景などを理解し外国人に寄り添った日本語学習支援ができる人材を養成することで、外国人の日本語学習機会を増やし、また質を上げることができた。 ・講座を通して日本語教育の重要性及び多文化共生の地域づくりを発信していく人を増やすことができた。		
取組による日本語能力の向上	特になし		
参加対象者	日本語学習支援・多文化共生に興味・関心のある市民、当協会の日本語学習支援ボランティアなど	参加者数 （内 外国人数）	21人（ 2人） ■入門編：14人（一般：11人、ボランティア登録者3人） ■ブラッシュアップ編：7人
広報及び募集方法	・当協会ウェブサイト ・大垣市広報誌 ・チラシ配布（配布先：市役所をはじめとする市内の公共施設、大学(岐阜県内の5大学)）		
開催時間数	総時間 20時間（空白地域 0時間）	内訳 ■入門編：10時間（2時間×5回） ■ブラッシュアップ編：10時間（2.5時間×4回）	
主な連携・協働先	大垣市役所、日本語学校		

受講者の出身（ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
			1人							19人	21
※該当する場合のみ	アルゼンチン：1人										

【入門編】実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和3年7月31日(土) 10:00～12:00	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-3	11	在住外国人の状況、多文化共生について、日本語学習支援活動について	・大垣市の外国人の状況、多文化共生の取組紹介 ・日本語学習支援の各種取組を紹介(役割や外国人との接し方などを動画を使い説明)	桐山 知弘 (吉安 三恵)	なし
2	令和3年8月7日(土) 10:00～12:00	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-3	12	日本語学習支援者とは？①	・日本語学習支援者に望まれる資質・能力 ・日本語の特徴(文法、文字など)	柏谷 涼介	なし
3	令和3年10月16日(土) 10:00～12:00	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-3	10	日本語学習支援者とは？②	・前回の続き ・やさしい日本語について ・発話調整	柏谷 涼介	なし
4	令和3年10月31日(日) 10:00～12:00	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-3	9	コミュニケーションの日本語とは？ 現場を見学	・語彙や文法について ・生活で使える日本語を習得するためにcan-doの考え方を紹介 ・日本語教室やマンツーマンの現場を見学	柏谷 涼介	なし
5	令和3年11月3日(水・祝) 10:00～12:00	2	スイトピアセンターかがやき活動室6-3	12	日本語支援の体験をしてみよう	・支援方法のモデル例を提示(平成29年度に作成した日本語教材を使用して) ・モデル例を使用しての体験	柏谷 涼介	なし
【ブラッシュアップ編】実施内容								
6	令和4年1月8日(土) 14:00～16:30	2.5	スイトピアセンターかがやき活動室6-3	7	日本語学習支援者に求められていること、日本語文の構造	・「文化審議会国語分科会」の資料に基づき、日本語支援者に求められる資質・能力について ・日本語文の構造(文法)	柏谷 涼介	なし
7	令和4年1月15日(土) 14:00～16:30	2.5	スイトピアセンターかがやき活動室6-3	7	日本語文の構造	・日本語文の構造(文法、音声)	柏谷 涼介	なし
8	令和4年2月5日(土) 14:00～16:30	2.5	スイトピアセンターかがやき活動室6-3	6	コミュニケーションの日本語とは？①	・発話調整 ・生活者の日本語学習支援で使える教材やアプリの紹介	柏谷 涼介	なし
9	令和4年3月3日(木) 10:00～12:30	2.5	スイトピアセンターかがやき活動室6-3	1	コミュニケーションの日本語とは？②	・コミュニケーションのために必要なこと ・話す、書くの能力を高める方法	柏谷 涼介	なし
計		20		75				

（1）特徴的な活動風景（2～3回分）

〇取組事例①

【令和3年7月31日】入門編の1回目
⑴多文化共生についての講義（講師：大垣市まちづくり推進課（多文化共生係）職員）
・大垣市在住の外国人人口、国籍、在留資格等のデータから、外国人の背景などを話してた。
・大垣市が実施した多文化共生に関するアンケート（外国人と日本人を対象）結果から市民の意識、また外国人が困っていること、日本語の理解度などを紹介し、参加者と共に、外国人市民への日本語学習支援の必要性を考えた。
・多文化共生に関する大垣市の取組、日本語学習支援事業の具体的な取組を紹介し、多文化共生の考え方や日本語学習支援に関する理解を深めた。

⑵日本語学習支援について（担当：当協会職員）
・事前に撮影した動画で様子を見てもらい、またどのようなことを学習しているかスライドで紹介した。また、当協会で実施している日本語学習支援の取組について説明した。
・日本語学習の様子やこの講座後に活動してもらいたい日本語教室のアシスタントの様子がわかるような動画を入れたことで、具体的な様子が分かったなどの感想があった。

▲大垣市職員による講義

〇取組事例②

【令和3年10月31日】入門編の4回目
活動内容：・支援者に望まれる態度や姿勢について
・平成29年度に作成した教材を使った学習支援の方法の説明(実際の体験は次の回で実施した)
・日本語学習支援の現場の見学と様々な学習教材を見てどういった視点で教材を選ぶとよいかなど
（講師：セントラルジャパン日本語学校主任教員）
・平成29年度に作成した日本語学習教材「やさしい せいかつのにほんご～はなしましょう～」を使った学習方法の一例を示した。
・文化庁文化審議会国語分科会「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)」に示されている支援者に望まれる資質・能力にある、傾聴の姿勢や発話調整などについて考えた。
・実際の日本語学習の場を見学し、活動中のボランティアの人が実際どのような姿勢や態度で行っているか、良い見本と改善点のある見本もあったが、それを受講者の人が気づいてもらえたようだ。

▲講師による講義

▲教材の見学と選び方の説明

（2） 目標の達成状況・成果

・目標が達成できたかを検証するために、アンケートを実施した。詳細は別紙アンケート結果の通り。
・（入門【5】）「このプログラムを受ける前よりも、「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まったと思いますか」の質問を実施した。全員が「深まったと思う」または「まあまあ深まったと思う」と答えた。講座を通して「生活者としての外国人」に対する理解が深まり、日本語学習支援の必要性を全員が感じたことからも、目標にある「地域住民の外国人に対する意識や多文化共生の考え方に関する理解を促す」一定の成果を上げることができたと考える。
・入門編では、一般市民（ボランティア未登録者）が11人受講し、うち6人が講座受講後ボランティアに登録した。コロナ禍で、まだ活動を始めていない人もいるが、ほとんどの人は既に教室アシスタントやマンツーマン方式の日本語学習支援ボランティアとして活動している。講座を通して外国人が日本語を習得する必要性を感じ、日本語支援に関わる人材が増える結果につながった。
・ブラッシュアップ編では、日頃の活動で困っている点を事前に募集し、講座の中で扱った。受講者が知りたい具体的なことを伝えることができ、また少人数だったことから講師との直接のやりとりもできた。不安を解消して継続した支援につながっていくと感じたので、今後も聞きたいことを募集していきたいと考えている。
・講座の受講者のうち二人は、外国出身の人であった。二人とも日本語を第2言語として学んだ経験を活かして、ボランティア活動に興味を持ったり、実際に活動したりしている。日本語学習の場に、得意分野を活かして地域で活躍していただけることは本人にとってのやりがいだけでなく、多様な背景を持った人が関わることは重要な視点である。今後もそのように活動しやすいきっかけ作りをしていきたい。

（3） 今後の改善点について

・入門編受講者で、ボランティアをしていない人全員が日本語支援に「関わってみたい」または「できれば関わってみたい」と答えた（【6】参照）。そのうち半分が実際の活動に繋がった。例年より多くの人が支援者になってもらうことができた。残りの半数の人の不安要素を聞くことで、実際の活動に繋がる人を増やせるかもしれない。講座後にメールや電話で聞く機会を設けることも検討したい。
・入門編アンケート【7】で「ボランティアを始めると想定した場合、不安に思うこと、さらに身につけておきたいと思うこと」を尋ねた。「もう少し練習してから始めてみようと思う」という意見があった。講座の一環で、見学だけでなく実際に活動をしてみるという機会を持てるような内容を考えたい。

＜取組３＞ 【実施期間：令和4年2月13日】			
取組の名称	地域日本語教育シンポジウムin大垣		
取組の目標	・地域住民に対して、外国人市民の現状や本事業の取り組みの成果報告を通した情報発信を行い、外国人市民への日本語教育の理解や多文化共生のための地域づくりについての理解を促す。		
取組の内容	・大垣地域の外国人の現状や当協会で実施している日本語学習支援の取組を広く知ってもらうこと、「つながる」をテーマとして地域と日本語教室のつながりを考えるシンポジウムを行った。 ・オンラインでの開催で行った。（当初は会場とオンラインの両方で開催予定であったが、「まん延防止等重点措置」適用期間となったことから、オンラインのみとした） 【当事業の成果報告と学習者のスピーチ】（30分） ・大垣市の外国人の状況や背景と共に、取組1と2を含む日本語学習支援事業の実施報告と課題提起をした。 ・日本語教室の学習者2人（ともにブラジル出身）が、日本語教室に通う理由や生活で変化したことなどをスピーチした。 【講演会】（50分） ・「Vivaおかざき!!」代表の長尾晴香氏による「日本語教室と地域とのつながり」と題した講演。 【パネルトーク】（75分） ・日本語支援の場と地域とのつながり、また外国人市民と地域とつながりを作るために、体験談などを通して考えるパネルトークを行った。 ・大垣市在住で日本語支援を始め地域の活動に関わっている外国出身の方にパネリストを依頼した。地域連携の経験がある子どもの学習支援などを行っている団体の代表、当協会の日本語教室の支援者、日本語教室の災害の回に協力をしていただいた防災士、岐阜県外国人防災リーダーの3人である。 パネリスト：岡本幸氏（カピコ（大垣外国人コミュニティーサポートセンター）代表、ブラジル出身） グエン ティ ジェップ氏（日本語教室支援者、ベトナム出身） 長瀬由信氏（防災士、岐阜県外国人防災リーダー、ブラジル出身） コメンテーター：長尾晴香氏（Vivaおかざき!!代表） 進行：伊藤かんな氏（岐阜協立大学　非常勤講師）		
空白地域を含む場合，空白地域での活動			
取組による体制整備	・参加者が日本語教育の重要性や地域とのつながり作りの大切さを理解し、多文化共生社会のために自分は何ができるか考えることができた。 ・外国人の社会参加のためには、地域全体で外国人の日本語能力の向上や共生への意識啓発をして、地域全体での連携体制を築くことの大切さを共有することができた。		
取組による日本語能力の向上	・日本語スピーチをした2人は、スピーチの準備を通して日本語の表現や伝え方を学んだと共に、日本語を話すことの自信につながった。		
参加対象者	・日本語学習支援者、日本語教育関係者 ・一般市民、多文化共生に興味のある人 ・外国人住民 ・自治体職員など	参加者数 （内 外国人数）	79人（3人）
広報及び募集方法	・当協会ウェブサイト ・大垣市の広報誌 ・チラシ配布（配布先：市役所をはじめとする市内の公共施設、大学（県内5大学）、岐阜県庁、西濃地域の役場、岐阜県内の国際交流協会や日本語教室） ・文化庁のサイト掲載及び文化庁からのメール配信 ・ボランティア登録者及び賛助会員への案内送付		
開催時間数	総時間　3時間（空白地域　0時間）	内訳　　3時間　×　　1回	
主な連携・協働先	大垣市		

受講者の出身（ルーツ）・国別内訳（人） ※該当する場合のみ	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	計
			2	1						76	79

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	令和4年2月13日(日) 13:00～16:00	3	オンライン (Zoomウェビナー)	76	地域日本語教育について考える 「日本語教室と地域のつながり」	〈取組の報告と学習者のスピーチ〉 ・今年度の取組の成果発表 ・取組1の日本語教室受講者2人(ブラジル出身)による日本語スピーチ 〈講演〉 ・日本語教室と地域とのつながり 〈パネルトーク〉 ・地域とつながる日本語教室～体験談を通して～		〈取組の報告と学習者のスピーチ〉 吉安　三恵 ヨコヤマ　アルトゥル ミヤノ　ジェシカ 〈講演〉 長尾　晴香 〈パネルトーク〉 岡本　幸 グエン　ティ　ジェップ 長瀬　由信 長尾　晴香 伊藤　かんな
計		3		76				

（1）特徴的な活動風景（2～3回分）

〇取組事例①

【第1回　令和4年2月13日】

【日本語学習支援の取組の紹介と外国人市民によるスピーチ発表】
・取組1、2及び自主財源で実施しているマンツーマン方式の日本語学習支援など、現在までの大垣の取組の紹介と活動の中で抱えている課題を提起した。
・今年度の日本語教室参加者でブラジル出身の2人が、日本語教室に参加したきっかけや、今後の目標など日本語でスピーチした。

【講演「日本語教室と地域とのつながり」】
・日本語教室を通じて地域住民や行政とのつながりを持つことができる。また、活動の場を教室の外で行うことで、そこに関わる人に外国人住民を理解してもらうことができるなど、日本語教室は地域との架け橋となる。その先に目指すものは「共生」であり、お互いが変化しながらお互い受け入れていき、現状にあったものに変えていくことが求められている。そのためにも日本語教室が地域とつながっていくことが大切、という話があった。

【パネルトーク 「地域とつながる日本語教室～体験談を通して～」】
・パネリストから次のような意見があった。
・子どもの学習支援に大学の学生がサポートをしてくれた。その学生がイベントを企画し、子どもたちを地域文化体験に参加させてくれたことをきっかけに大学のまちづくり団体と連携できた。
・日本語が十分でないけれども、社会の役に立ちたいと思っている人がいる。それぞれが自分の持ったスキルを活かせる仕組みがあるとよい。自分の得意分野で活動する中で、私自身も日本語を習得することができた。そのような場があることは、社会にとっても本人の生きがいとしても、良いことだと思う。
・私が日本語教室の支援者として活動できたのは、知り合いが紹介してくれたから。友人や会社の人など、周りの人に自分ができることがないか、話をしてみるとよい。
・災害時だけ関係を作ろうと思っても受け入れてもらえない。日頃から繋がることが大切。まずは挨拶から始めることが大切。
・日本人には頑張っている外国人もいること、また外国人にも日本の将来のために頑張っている日本人がいることを、お互いに知ってほしい。お互いの気持ちを分かり、一緒にやっていこうということを伝えたい。

▲学習者の日本語スピーチ

▲パネルトーク

（2）　目標の達成状況・成果

・申込者の約半数は、岐阜県以外からの参加であった。今年度の取組を広く紹介することができ、アンケートからも取組がよくわかった、大垣の取組が自分の活動の参考になったという声があった。
・アンケートの自由記述欄には、「地域とつながり共生できる支援が必要であると感じた」「地域住民として共に生活するために日本語教室は必要だと再認識した」「商店、病院などの場所で実施していることは印象的だった」など、今回のテーマであった「日本語教室と地域とのつながり」について共感の声が多数あった。日本語教育に対する理解に加えて、多文化共生の地域づくりに対する理解も深めてもらえたと感じた。
・また、「外国人は支援されるばかりではないということが参加者に伝わったと思う」「外国ルーツの方々が日本語教室の支援者だけではなく、他の活動にも関わっていることが頼もしく思った」などの感想があった。当協会の教室では指導者も支援者も外国出身者と一緒に行っている。その意味も感じてもらえたように思う。
・登壇者との関係づくりも出来、今後も共に活動していける協力関係ができたことは心強い。今後の新たな展開に繋げることができる一歩になった。

（3） 今後の改善点について

・参加者同士の意見交換の場があるとよい、と言う意見があった。一昨年に開催した際は、参加者の交流の時間には、話が尽きないくらい盛り上がっていた。コロナの状況次第だと思うが、参加者同士が話し合える場を作ることも考えていきたい。
・内容的に盛りだくさんで長いと感じた、という意見があった。参加者同士の交流の場がない中で、3時間は長いかもしれない。開催方法によって、内容と時間の長さを考えていきたい。
・この地域で取り組んでいるもっと多様な人にパネリストに入ってもらいたい、という意見があった。人数が増えると深く掘り下げる時間が持てないなど別の難しさもあるが、次回開催できる場合には、この意見も参考にしたい。

4. 事業に対する評価について

（1） 事業の目的・目標

言葉の壁によるコミュニケーション不足、そして生活習慣、文化の違いなどから生じる地域生活での困難さを解決するために、外国人市民の日本語コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域生活のルールやマナー、習慣等を理解する機会を設ける。その中で、地域住民が日本語学習支援者として外国人に寄り添い、社会の中で孤立しがちな状況を軽減させることに加えて、地域に溶け込んで生活できることを目指す。また、多文化共生社会の実現に向けて、日本語教育の取組などを広く地域住民に発信し、日本人と外国人が共に認め合い、対等な立場で生活できる地域づくりを目指す。

（2） 目的・目標の達成状況・事業の成果

・日本語教室の受講者アンケートから、教室参加前と比較し日本語が理解できるようになった、地域生活がしやすくなったなど、成果があった。日本語教室の参加が生活者としての地域生活に役立っていることが分かる。地域の人と関わり、つながり作りの第一歩となるような活動ができたと考える。
・生活する上では言葉だけでなく様々な情報が必要であるため、生活場面をテーマにした日本語とそれに関する情報を学ぶ日本語教室を実施した。受講者の内容に対する満足度からも取組の実施は一定の効果があったと考える。
・日本語学習支援ボランティア講座の実施により、地域住民に外国人の背景や実情を知ってもらうことができた。受講後にボランティアとしての活動に繋がった人もそうでない人も、多文化共生に対する知識や姿勢のある人が増えることで、外国人に寛容な地域づくりに繋がっていくと感じている。
・シンポジウムによって、日本語教室が閉ざされたものではなく、地域との関係作りの基礎となる場であり、いかに地域とのつながり作りが大切かを考えることができた。そのような教室の在り方を日本語学習の支援者や地域住民、自治体職員など関わる人々と共有できた。
・日本語指導者の1人にはドイツ人で日本語教師の人に依頼した。また、日本語教室のアシスタントとしてベトナム人２人が参加した。日本語学習の先輩であり、学習者目線で寄り添った対応や姿勢でサポートし、学習者は安心して教室に参加していたようだった。学習者が多様な立場の人との関わりで得られるものがあるだけでなく、指導者やアシスタントとして参加した外国人にとっても地域社会での活躍の場になっている。日本語学習の先に活躍できる場を作っていくことの一つでもあると思うので、今後も外国人が支援側として活動できる機会を増やしていきたい。
・全体として、まだ不十分なところもあるが、日本人と外国人が共に寄り添える基盤を作ることができたと考える。

（3） 地域の関係者との連携による効果，成果　等

①行政機関との連携
・市の職員（多文化共生、災害、ごみ、消防署、保険センター）が日本語指導者と共に教室活動（ごみの分別や避難所の確認など）を行い、必要な情報提供をした。直接外国人市民に接する中で、行政からの情報提供の大切さと共に、どうすれば伝わるのかを実感してもらうことができた。
②日本語教育機関（大学、日本語学校）
・地域の日本語学校及び大学で日本語を教える日本語教師（有資格者）が日本語教室の指導者をした。日本語教育の専門性と生活者の観点の両方を持った教室活動ができた。
③運営委員会
・日頃から生活者としての外国人に関わる取組を行っている団体関係者（大垣市職員、日本語教育機関で教える日本語教師、小学校教員、在住外国人による団体、大垣市の多文化共生事業のコーディネーター、岐阜県多文化共生推進員）に運営委員会のメンバーに入ってもらい、各機関とのネットワークを形成し、外国人との共生に関する課題を共有し、各取組の人材や情報の活用において連携・協力ができた。

（4） 事業実施に当たっての周知・広報と，事業成果の地域への発信等について

●参加者募集に当たっての周知・広報
【取組1：日本語教室】
・当協会ウェブサイト
・大垣市広報誌(ポルトガル語版)
・チラシ配布（やさしい日本語・ポルトガル語・中国語・英語版）（配布先：市役所、外国人学校、外国人児童・生徒放課後学習支援教室）
・SNS(Facebook(やさしい日本語・ポルトガル語・英語)、微信(中国語))
【取組2：日本語学習支援ボランティア講座】
・当協会ウェブサイト
・大垣市広報誌
・チラシ配布（配布先：市役所をはじめとする市内の公共施設、大学(岐阜県内の5大学)
・ボランティア登録者への案内送付
【取組3：地域日本語教育シンポジウムin大垣】
・当協会ウェブサイト
・大垣市広報誌
・チラシ配布（配布先：市役所をはじめとする市内の公共施設、大学(岐阜県内の5大学))、岐阜県庁、西濃地域の役場、岐阜県内の国際交流協会や日本語教室）
・文化庁のサイト掲載及び文化庁からのメール配信
・ボランティア登録者及び賛助会員への案内送付

（5） 改善点，今後の課題について

①日本語教室の活動・運営について
・国籍や日本語レベルが様々でも、回を重ねるごとに学習者同士の交流ができていた。学習者間の交流を促し、学習者が教室に参加したい、また教室が居場所になるよう、教室運営に活かしていく。また、支援者の関わり方で、教室活動が活発になっていくのを感じたので、支援者講座を通して支援者の望まれる姿勢や態度などを伝えられる工夫をしていきたい。
・日本語学習を希望する人が大変多くいる。取組１で実施した教室形式と自主財源で実施しているマンツーマン方式など、複数の取組を実施しているが、それぞれの取組間の連携が不十分である。連携を図る体制整備が、日本語学習希望者の待機解消にも繋がると思うので、連携方法を検討していく。
②人材の育成・研修の実施について
・学習希望者に対して、支援の人材が不足している。外国人の入国制限の緩和による今後在住外国人が増えることが予測されるため、新しい人材の育成に加えて、既に支援者となっている人のステップアップを含めた、人材育成研修の内容を文化審議会の報告書などを踏まえて検討していく。
③日本語教育事業の実施体制、全体の取組について
・日本語教室の実施プログラムやカリキュラム作成など、日本語教育のコーディネートすべき業務は多岐にわたる。今年度は、各教室のコーディネーター連携のため会議を開催する予定であったが、教室スケジュールの再三の変更等の業務により、会議の開催までできなかった。今後は、教室間の連携も含めて、より一層関係者との連携を図っていく。
・日本語支援が必要な外国人に情報を伝達できるように各関係機関との連携の見直しをしていきながら、互いに顔の見える関係づくりに向け、連携方法を含め検討していく。
・教室外での活動をもっと行い、地域とのつながりを作る教室活動を考えたい。
・コロナの「まん延防止等重点措置」適用による中断から、特に日本語教室が予定どおりできなかった。アンケートからも、「閉講になって残念」「また再開すれば参加したい」という声があった。今後もそのような影響が出ることが予測される中で、オンラインの活用を含めた中断中にできる方法を検討していく。

（6） その他参考資料

〇チラシ

・日本語教室「レベル1（1～3期）」「レベル2(1、2期）」「せいかつの日本語クラス」（それぞれ日本語、ポルトガル語、中国語、英語）
・日本語学習支援ボランティア講座「入門編」「ブラッシュアップ編」
・地域日本語教育シンポジウムin大垣

〇受講者アンケート

・日本語教室「レベル1（1期、3期）」「レベル2(1期、2期）」「せいかつの日本語クラス」
・日本語学習支援ボランティア講座「入門編」
・地域日本語教育シンポジウムin大垣